

令和6年度空知農業改良普及センター外部評価報告書

空知農業改良普及センターが取り組んでいる普及指導活動について、効率的、効果的に展開し今後の普及活動に役立てるため、地域で活躍する農業者や関係者、消費者及び有識者の皆様と意見交換を通じて、普及事業に関する外部評価を実施しましたので報告します。

I 日時・場所

日時：令和6年7月10日（水）13：00～15：00

場所：空知総合振興局4階講堂

II 懇談会名

令和6年度空知管内地域農業づくり懇談会

III 参集範囲

地域における安全・安心な農産物生産や農村地域の多面的な機能等の理解とともに、農業改良普及事業に対する理解と協力を得るため、次の各分野から参集する。

- (1) 先進的な農業者
- (2) 若手・女性農業者
- (3) 農業関係団体
- (4) 消費者
- (5) 学識経験者
- (6) 報道機関

IV 報告内容

- 1 北海道農業改良普及事業の概要について
- 2 普及活動事例報告
 - (1) 本所：GAP認証取得を目指した地域の取組
 - (2) 本所：複合経営の安定化と担い手を核とした地域農業の振興
 - (3) 南西部支所：土地利用型作物導入による生産基盤の向上

V 意見交換、ご感想等

1 北海道農業改良普及事業の概要・普及センターの活動全般についてのご意見・ご感想等

- 技術普及を担える人材不足、各農協において、担当である世代の人材が本当に不足しているし、スキルが上がっていない。そういうところを普及センターや農協の営農指導と連携しながら、今まで補っていたが、補いきれない状況になっている。
また、優秀な方はいるけど、それに付随して動いてくれる人が、人材的に足りないと感じている。解決できる形を模索していただきたい。（先進的な農業者）
- 農業者の地域協議会が農協とかと連携して、技術の話や懇親を深めているが、地域協議会の数もかなり少なくなってきたので、できれば段階を踏んで話し合う場を作っていただきたい。（先進的な農業者）
- 新しく取り組む農業者になかなか技術の浸透がうまくいっていないところがあるため、青年部と協議して、部会などを作ろうと思っているが、普及センターにも後ろから支援してほしい。（若手・女性農業者）
- 普及活動の概要を見ると例えば労働力の不足、これなどは商工業者も大きな課題で、同じ問題で共通していると感じている。

また、それぞれの商工業者がどういうことができるのかということを考えると、ここにあるとおり地域の特色ある農産物、独自産業化、グリーンツーリズム、地産地消などについては、商工業者の会員の活動の中で、連携した取り組みもできると感じている。

労働力不足という話があったが、外国人労働者もかなり増えてきているため、岩見沢商工会議所も今年から、岩見沢市と協力して日本語教育の場所をつくる取組を始めている。外国人の方が日本に来てなかなか苦労されていると聞いているので、そういう日本語教育をご支援できると思っている。

日本と台湾の友好親善協会の会長をしており、空知のいろいろな宣伝もさせていただいている。

空知は農業が大きな魅力であるため、空知の農業について情報発信していくと、多くの観光客に来ていただけるのと考えている。そのため、関係者や空知総合振興局のみなさまのお力とお知恵をいただければと考えているので、よろしくお願ひしたい。(消費者)

- 畜産のプロジェクト関係では、空知の畜産関係のいろいろな人にお世話になっており、畜産の将来の担い手のプロジェクトをスタートしていけることに感謝申し上げたい。畜産に関わる生徒の状況は、1年生の入学者がとうとう20名を切っていて、学科の運営も危機的状況に来ている。

何とか生徒の確保に努めなければいけないということで、来年度の生徒募集では、道北や道南の方では胆振とか八雲の方まで手を伸ばして、何とか将来の担い手を確保していきたいと考えている。道外もできるだけターゲットを絞って、関東と関西に生徒募集をかけて、将来の畜産を担う担い手を集めていきたいという戦略を立てている。なんとか畜産関係の学科を学んで上位の農業大学校だとか専門の担い手育成機関につないで、本道の畜産の担い手を確保できるようにしていきたいと考えている。

(学識経験者)

- 普及センターも人手不足で大変だということが冒頭であったが、農家の現場に対し、細かいことでも答えてもらえたら、今後も良いと思った。(報道機関)

2 普及活動事例

(1) 本所：GAP認証取得を目指した地域の取組術の実戦に向けた普及活動～

- 未来の農業関係者を育てる農業高校において、学習がそういうものに基づいているということは、地域農業として大変心強いなと思うとともに、GAP認証の取組で普及センターのみなさんがチームで農業者を支えてくださっていることも心強く感じた。(若手・女性農業者)

- GAP認証の関係について、私も長らくGAPの教育に携わってきたが、はくさい部会が普及センターとJAの取組の中で認証に至っているということは、高く評価できると思っている。

本校も毎年審査しているが、審査を受けるとその度々にGAP認証団体における審査基準が変わっている。

去年変更になった書類を準備しても、今年受けるとまた新しい科目が追加されるということで、それに適応しながらやっていくわけである。以前、前の学校でお米のJGAPを取ったが、精米工程に入った時に精米の部分については別の部屋ですという審査に変更になって、その予算を確保するのに大変な思いをしたことがあった。生産者にとって、そういったことが生じると大きなハードルになってくると思う。はくさいの方はそうならないと思うが、そういう経験があるので、お話をさせていただいた。(学識経験者)

- GAPの取組で良かったと思うのは、普及センターだとか、JAとか関係機関を巻き込んで、いろんな人が体験するとか共有するとか、身に着けるとか、実際人の中に能力を育成するということを重視しているところがとても良いと思った。

一方で今後必要となるのは、普及センターとかJAとか異動があると思うので、ノウハウを地域に残すには、どうしたらいいのかということは今後考える必要があると思った。例えば、農家の方にキーパーソンを育てていくとか、今では距離が遠くなくてもオンラインでビデオ生配信のような形で、離れていてもノウハウを伝えることができるようになってきているので、いろいろそういったことも使いながら対応を考えると良いと思った。(報道機関)

(2) 本所：複合経営の安定化と担い手を核とした地域農業の振興

- 農業者にとって、情報交換、情報共有する場を作っていただくことが、担い手が集まる場を作るとともに、技術向上につながるのではないかと大変心強く感じた。また、田畑輪換の話が出てきたのも興味深く感じた。

長沼町は泥炭地で、美唄に比べて課題の多い地域であるが、美唄の地でこのように成功している事例を見ると、長沼でもやってけるのではと希望が持てた。(若手・女性農業者)

- 今までの麦大豆の交互作の限界という中で、それぞれご苦労されている。当管内もすごい勢いで、作物の構成が変わっていくのが見えているが、なかなか農協の施設整備が間に合っていない。作が変われば、今まで足りなかった施設が逆にいっぱいになってくるとか、今まであった施設がいらなくなるだとか、一つの再編が求められている。しかしながら、なかなかそれに投資するお金が各JAにないという中で、非常に苦労されていると思う。(農業関係団体)

- 農作物は作って終わりではない。しっかりと集めて物流し、最後に売るところまでやらないと農家の方々の所得にならないということなので、担い手、農地、施設の3点がしっかりとうまく噛み合っていないと今後、農家のみなさんのご苦労が報われないことになる懸念している。

(農業関係団体)

- 複合経営の話で、良かったなと思ったのは、いろいろ排水対策だとか、わかりやすいポイントを目標に立てて、しっかりと評価していくということが、おそらく農家にも分かりやすく良かったと思った。また、水田農業の情勢が変わる中で、地域の農業を考える会を設立されたこととか、そういった地域の話し合いの場をこの取り組みの中で作れたことはとても意義のあることだと思った。

一方で取り組みを実践する農家が目標達成率57%とあったが、忙しい中で日々の作業をしていると思うので、「これに取り組むのは、こういった意義があつて大事だ」と目線を合わせて、情報共有することで、もっと取り組みが増えていくと思った。(報道機関)

(3) 南西部支所：土地利用型作物導入による生産基盤の向上

- 長沼町の当地区は、一昨年から重点地区として、圃場の状態や穀物の生育状況を細かく調査いただいている。FAXやLINEなどで農作業の計画を作る上で、大変参考になっている。当地区は調整が昨年完了した。圃場整備後の作付けにおいて、日誌設計や作業のアドバイスをいただいたことは営農において大変感謝している。

稲作においては、圃場整備後の課題面が多く、農業者としても迷うことがあるので、このような時に普及センターさんの助言により、生育状況に応じた肥培管理などを丁寧に指導していただいたと伺っている。畑作においては、生育状況や土壌作況に応じた調査をしていただいたり、それに基づいた施設設計や病害虫の発生についても細かく調査していただいた。

取り組みは3年目を迎え、作物の収量も順調に伸びてきている。地域に根ざした普及センターさんの活動によって、当地区での実績が町内の農業者仲間とか、地域全体に普及していると実感している。

(若手・女性農業者)

- 土地利用作物導入の話で良かったと思ったのは、地温みたいに刻々と変わるものをLINE等のSNSを使って、リアルタイムでタイミングを伝えるということが、手法として面白く、有効だなと思った。子実用とうもろこしで、例えば乾燥調整を外部委託するのだったら、何キロ以上とらなければいけないとか生産性の話もあったが、こういったことは普及センターにしかできない仕事だと思った。

課題というわけではないが、「基盤整備後の施肥をどうする」とか、これまで注目されてこなかった部分だと思うが、こういったものを試験に取り組んでデータ化して、作ったということは非常に意義あることだと思った。(報道機関)